

東青

# みどりの通信

No.104

平成28年  
12月21日



東青地域県民局地域農林水産部

■ 農業普及振興室 ■

〒030 - 0861

青森市長島二丁目10番3号 青森フコク生命ビル6F

TEL 017-734-9990 FAX 017-734-8305

<http://www.applenet.jp/~higashi-nousui/index.htm>

E-mail [hi-nosui@pref.aomori.lg.jp](mailto:hi-nosui@pref.aomori.lg.jp)

## 飯塚久雄さん 「田中稔賞」を受賞！

平成28年12月20日、青森国際ホテルにおいて第36回（平成28年）「田中稔賞」の贈呈式が開催され、田中稔稲作顕彰会の佐山会長をはじめ歴代受賞者など多数の関係者が出席する中、青森市高田の飯塚久雄さんが栄えある同賞を受賞されました。

「田中稔賞」は、早熟耐冷多収品種「藤坂5号」を育成し、県内外の稲作を冷害・凶作から救った田中稔博士の業績を称え、後世に伝えるべく創設され、本県の稲作農業の発展に顕著な業績を上げた個人及び団体を表彰するもので、本県稲作関係で最も権威のある賞です。

これまで東青管内では、第3回（昭和58年）の金澤峰太郎さん（青森市内真部）、第4回（昭和59年）の石田末廣さん（旧蟹田町小国）、第28回（平成20年）の農事組合法人 羽白開発（青森市羽白）、第33回（平成25年）の大柳壽憲さん（青森市高田）及び第34回（平成26年）の福士武造さん（青森市浪岡郷山前）が受賞しています。当管内からは、2年ぶりの受賞となりました。

このたびの受賞は、飯塚さんが取り組んでいる、①稲わら堆肥の施用と稲わらのプラウ耕すき込みによる土づくり、②プール育苗による健苗育成と労力削減、③側条施肥による初期生育の確保、④水田一筆ごとの記帳管理によるほ場の生育に合わせた適正施肥の実施、⑤直播と移植を組み合わせた効率的な作業体系の実践などが高く評価されたものです。

受賞を受け、飯塚さんは、「農地を守るため、農業をやめる人たちから農地を借り受けて規模拡大に取り組んできました。これからも消費者が安心して食べられる米づくりを心掛けながら、地域農業の担い手育成にも微力を尽くしていきたい」と今後の抱負を述べていました。



受賞を喜ぶ飯塚久雄さん夫妻



コンバインでの稲刈り作業風景

## 『青天の霹靂』生産販売懇談会で更なる飛躍を！

平成28年11月30日に、ホテルクラウンパレス青森において、青森農協「青天の霹靂」生産者部会と東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームの共催で、平成28年産の「青天の霹靂」生産販売懇談会が開催されました。

事例発表では、5名の部会員が追肥時期や刈取適期、雑草対策など生産面で苦勞した点や次年産に向けた課題について発表しました。指導機関を交えた意見交換では、施肥や防除等の課題に関するアドバイスを受け、生産目標達成に向けて、決意を新たにしていました。

生産者部会では、出荷全量が玄米タンパク含有率6.4%以下となり、2年連続で全量出荷基準をクリアしましたが、玄米タンパク含有率の生産目標値である6.0%以下を全量達成するため、部会員各々がしっかり責任を持ち、「青天の霹靂」の生産に取り組むことを再確認しました。



事例発表の様子



聞き入る部会員の方々

## ネットワークが広がるグリーン・ブルー・ツーリズム

東青地域では、北海道新幹線の開業効果を最大限に活用するため、地域の特性である里と海の資源を活かしたグリーン・ブルー・ツーリズムに取り組む方が増えています。その活動推進母体である「東青地域グリーン・ブルー・ツーリズム推進協議会(27個人・団体)」では、日帰り体験を中心に、一般消費者を受け入れています。受入した会員からは、消費者と直接触れ合うことで、普段気づかなかった、新たな発見があり、翌日からの生産の励みになるという声が聞こえています。

青森市沖揚平で野菜を栽培している平井義隆さんは、今年からこの活動をスタートし、農産物の収穫作業と木登り体験メニューでリピーターを獲得しており、「自然豊かな八甲田でこの取組を継続して、沖揚平の自然とそこにある暮らし、農業の魅力を伝えていきたい」と手応えを感じているようです。

グリーン・ブルー・ツーリズムに興味のある方は、農業普及振興室まで御連絡ください。



みんなでだいこん600本掘り取り



とうもろこしの収穫に夢中



初の木登りで、楽しさ倍増



## 「新そばPR月間」で「あおり海道そば」の需要拡大

東青管内で生産されたそばのブランド化を目的として、平成21年に「あおり海道そばブランド推進協議会」が設立され、これまでそばフォーラムの開催や市内のケーキ店とのコラボ商品開発等、様々な活動をしてきました。

今年度は新たなファンづくりのために、「新そば祭り」（10月29、30日に開催）をスタートに12月末までを「新そばPR月間」として、あおり海道そばMAPをリニューアルし、スタンプラリーを実施したほか、そば打ちやそば粉を使ったスイーツ教室などを開催しました。

「あおり海道そば打ち教室」は、親子での参加が多く、そば打ちが初めての人も蓬田村そば打ち研究会から丁寧な指導を受けながら、楽しくそばを打ち、出来映えに満足していました。

また、あおり海道そばブランド推進協議会の構成員である農事組合法人羽白開発では、新商品として「蕎麦そうめん」を発売し、喉ごしが良く食べやすいと好評を得ています。「蕎麦そうめん」は1袋200g250円でJA青森あすなろ直売センターで販売していますので、是非召し上がってみてください。



あおり海道そば打ち教室



あおり海道そば（乾麺）と  
新商品の蕎麦そうめん



## 果樹の楽園づくりを推進！

東青地域では北海道新幹線開業や青森港への大型客船寄港による観光客の増加が期待されています。このため、当農業普及振興室では、今年度から「東青地域果樹の楽園づくり推進事業」を実施し、東青地域の果樹観光の活性化を目指しています。

9月に果樹観光に取り組んでいる方々をメンバーとした「東青果樹観光ネットワークづくり研究会」を設立しました。

毎月ミーティングを行い、アドバイザーのたびすけ“合同会社西谷”西谷雷佐代表による観光果樹園の現地リサーチを実施したほか、ネットワークを生かした果樹観光に取り組んでいる長野県と山梨県の生産者団体等について先進地事例調査を行いました。

現地リサーチでは、様々なタイプの観光果樹園がそれぞれの特徴を生かした果樹観光を展開しているものの、点の取組であり、知名度が低いこと等がわかりました。

このため、研究会ではネットワークを活用した効率的なPR方法や各自の魅力を生かせる新たな取組等について検討しています。年度内に10年先を見据えた「果樹観光ビジョン」を取りまとめ、平成29年度にはネットワークを生かした具体的なプロジェクトに取り組むこととしています。



第1回ミーティング



現地リサーチ



## あおり就農サポートセンターが開設されました！

東青管内の5市町村と青森農協の協力の下、新規就農者に対する総合的な支援をワンストップで行う「あおり就農サポートセンター」が開設されました。

当センターには2名の栽培指導員と1名の就農相談員が配置され、関係機関と連携し、就農計画の作成や研修先の選定、各種支援制度の活用等のほか、就農後も巡回指導等により、きめ細かな栽培指導を実施しています。

近年、東青管内では、県外からの移住者を含めて、新規就農者が増えています。地域に上手く溶け込んでいくことがポイントになります。今後、東青管内で新規就農を目指す方は、是非当センターに御相談ください。



オープニングセレモニー

【お問い合わせ】

住所 青森市石江字江渡59-13

TEL (017) 752-6445

E-mail shunou-support@jaao  
mori.or.jp



## 4Hクラブが県立保健大学祭で農産物を即売

10月8日、9日の2日間、青森県立保健大学の大学祭が開催され、東青地区の4Hクラブ員が農産物即売会を行いました。即売会では、参加者が丹精込めて栽培した新鮮な野菜が並び、訪れたお客さんを喜ばせていました。さらに今年は、農産物即売会に加えて、保健大学が取り組んでいる「おかず味噌汁」の具材として4Hクラブが生産した野菜を提供するという形で、保健大学と4Hクラブのコラボを試みました。

おかず味噌汁の試食会では4Hクラブ員が野菜の紹介等も行い、地元の野菜をPRすることができました。4Hクラブではこういったイベント等を通じて、今後も地域住民との交流や販売力の向上にも積極的に取り組んでいきます。



農産物即売会



おかず味噌汁試食会



## 農業 & 福祉連携で、農業労働力の不足を解消

青森県では農業と福祉がお互いに連携して、農業側は労働力不足の解消、福祉側は就労促進につなげようと、試験的な就労「就労モデル実証」を行っています。

東青地域では今年度、①カシスの収穫、②たまねぎの植付け、③じゃがいもの収穫、④堆肥処理施設の清掃を行ったところ、連携農家から「とても助かった」等の感想が寄せられました。

この出会いをきっかけに、実際の「雇用」に発展（契約期間は数日間から週2回を5か月間等）したケースもあり、お互いに良い関係が築かれています。

今年度行った「就労モデル実証」は来年度も行う予定ですので、関心のある方は、是非農業普及振興室にお問い合わせください。



収穫後の笑顔！